STER MOTOR CYCLE
XLH1200C

文・写真＝渡辺まこと text & photographs by MAKOTO WATANABE
取材協力＝スターモーターサイクル phone 0166-20-0005 http://www.ster-motor-cycle.com/

チープな価格で市場に流通するモデルに手を加え、それぞれが改造を施すことで生み出されるチョッパーという創造物……そんな大前提をごく当たり前に考えてみると今のシーンではスポーツスターをベースとして選び、それにモデファイを加えることは、ごく自然な流れの一つだろう。

たとえばここに紹介するスターモーターサイクルによる一台は、まさに今、安価で取り引きされるスポーツスターを素材にし、手が加えられているのだが、フロントホイールはそもそもXLH12000Cで採用されていた21"サイズをそのままキープ。その上でリアフェンダーをショート化し、ハイトの高いライザーが一体型となったブームバーを装着することでチョッパー的なスタイルが強調されているのだが、クロームが施されたエンジンと相まって、むしろ高級感すらも感じさせるムードになっている点は巧みな部分だ。

リーズナブルな素材に手を加え、クールなマシンに仕上げんとするチョッパーの根本……それを感じる一台である。

❶ベントが存在しないブーム・バーとライザーを一体化したハンドルはスター製。グリップはビルトウェルを選択する。❷リアフェンダーはショートタイプに変更。シングルシートも同店製をチョイス。❸クロームの輝きが1200Cであることを示すエンジンにはS&S製スーパーEをセット。組み合わされるエアクリーナーはFORK製。

ライザーバーとショートフェンダーでチョッパー的な姿となったこの一台。巧い手法だ。

❶ビレットのシーソーペグに刻美のフットボードをブラック・アウトして装着。❷エクステンドしたサイドボックス、リアフェンダーのディティールも、極力、シンプルに仕上げている。❸黒一色で仕上げたエンジンはロッカーカバーをPM、タイマーカバーをトライジャのオリジナルに変更。マフラーには短いスラッシュカットを組む。

ベースは2009年のFLHX。シニスター製の極太スポークホイールは前21"、後18"。

傍目には黒塗りの、シンプルかつシックな趣に仕上げたFLHXのカスタムといった印象ながら、その前後の足周りには四輪のローライダー用のカスタムホイールで知られる"Sinister"製のファットスポークを組んだこのカスタムは、これまでに数多のバガー・カスタムを手掛けてきた大阪のショップ、トライジャによるものだ。

FLHT系のバガーカスタムに、ローライダー系のラグジュアリーなイメージの組み合わせとなれば、通常、大概の場合にはローライダー的な要素を幾分は偏重、派手な仕上がりを目指すところだが、このカスタムでは車体の色味をすべて黒一色でまとめ、極力、渋い印象に抑えている。

一般的なセオリーに捕われることも、また、パーツ単体が持つ方向性にリードされることもなく、パーツのディティールを活かしつつ、その全体像を巧みにコーディネイト。

エッジの効いたディティールをこれ見よがしに表さず、大人びた不良っぽさを漂わす、粋なカスタムとなっている。

文＝黒川鋲仁 text by TED KUROKAWA　写真＝渡辺まこと photographs by MAKOTO WATANABE
取材協力＝トライジャ phone 072-970-3110 http://trijya.com

TRIJYA
Deep black

当然ながらライディングポジションは一切無理のない仕上がりになっており、ルックスと乗り味の両方とも堪能できるのが同店の強み。

TRIJYA

Goddess

文＝宇保良男 text by YOSHIO UHO　写真＝渡辺まこと photographs by MAKOTO WATANABE
取材協力＝トライジャ phone 072-970-3110 https://trijya.com/

美しく流れるボディラインに、オリジナリティ溢れるペイントワーク。ユーロスタイルを基調にしながら芸術性の高いカスタマイズを施したのは大阪のトライジャである。

大理石の回廊に青いシルクが舞っているイメージで製作されたというこの車両、そのイメージを具現化するために様々なアプローチがなされている。フレームにモールディング整形した上でクラッキング処理を施した塗装をはじめ、ポリッシュ加工をしダイヤモンドカットで仕上げたエンジン周り、そしてフューエルタンクやリアフェンダー、ハンドルバーなどはすべてトータルのバランスを考えてワンオフで製作されている。ただ奇抜さを求めるような表面的なカスタムではなく、カスタマイズとしての質、美しさにこだわったこの仕上がりは、やはり今まで数々のマシンを手掛けてきた実力に裏打ちされるものであり、説得力に満ちている。

何も語らずとも問答無用に視線を独占するであろうその佇まい。カスタムビルドの本質を感じる極上の一台である。

❶エンジン周りはポリッシュにダイヤモンドカット加工で美しい輝きを手に入れた。キャブはCVの改造。個性的なデザインのエアクリーナーはレビフィーニを装着。❷リアフェンダー、そしてその造形を邪魔しない埋め込み式のテールライトともにワンオフだ。❸ド迫力のゴールダマーのフロントフォークはこの車両を語る上での重要なポイントだろう。ヘッドライトはヘッドウインズを装着。❹ソロシートもトライジャのワンオフ。座り心地も抜群なうえに、車体の雰囲気に良くマッチしている。❺マフラーはここ最近巷で支持が高まっているという電子制御音量可変式のジキル&ハイドをセレクト。音量調整機能がウリだ。